

令和4(2022)年度 住まいとコミュニティづくり活動助成 活動中間報告

団体名

特定非営利活動法人 いこいの家夢みん

活動のテーマ

高齢年分譲マンション団地の高齢居住者の余生と住いをともに考える活動

9月までに達成できた事項(箇条書き)

- ドリームハイツに居住する高齢者モデルの抽出 (5月～6月)
当NPOがネットワーク(見守り)を中心に、運営委員会で、モデルを抽出した。深谷町の三上介護士の協力をえてドリームハイツ内の高齢者モデル抽出を行った。
- 高齢居住者の余生や住まいを検討するため、アンケートより一人一人ヒアリングすることが良しと運営委員会で決定され、ヒアリング項目を決定した。(6月～7月)
- 約30人について、約1時間(一人当たり)の個別のヒアリングを行った。この時介護士や不動産の専門家に対応をお願いし、個人的な時々アドバイスを頂いた。(7月～9月)
- 個々のヒアリングシートの分析
- 特に70代～80代の世代が多く、心配事や、現在の希望、ハード・ソフトにわたり、多くの課題が出された。(9月)
- 課題の整理と今後の方向性の検討、具体的な解決策のアイデアとしてはNPOが資金(ファンド)を作り、介護の必要な人への支援等が話し合われた。

今後の活動予定と令和5年3月末時点の達成予定事項

- 30人のモデルのライフステージのケアプランの想定した。
 - ・特に住み続けたくて、課題の多い人を中心に、ケアプランを想定
- 不動産活用の方策
 - ・ハードの改修策(県公社ドリームハイツの1階の5段階改修策)
 - ・分譲住宅における、証券化の可能性の検討(地元銀行との連携)
 - ・管理組合との連携協議
 - ・リフォームのマネジメント
- ファンドの集め方
 - ・認定NPO(いこいの家夢みん)法人格を活用した企業からの寄付の受納
 - ・企業へ送るDM(ダイレクトメール)の送付リストの作成と当ファンドの企画書の作成
- ファンドへの個人資産の提供、相続や税の関係の整理
- 分散型サービス付高齢者住宅のドリームハイツにおけるモデルの検討

◆特定非営利活動法人 いこいの家夢みん
一高経年分譲マンション団地の高齢者居住者の余生と住いをともに考える
活動中間ビジュアル報告

1 運営委員会



運営委員会は、4月19日（火）、5月27日（金）、7月4日（月）8月9日（火）、9月20日（火）の計5回開催されました。

主な議題は以下の通りです。

- ・ヒアリング項目について
- ・ヒアリングする人の募集について
- ・高齢者介護について
- ・個人資産について

2 個別ヒアリング

個別面談は、7月18日から9月11日の間に計5日間行われました。ヒアリング対象である高齢な住民の皆さんの都合に合わせて、昼間の時間帯に、約30人に対して1対1で、夢みんや自宅に訪問する形で行われました。

主なヒアリング項目は以下の通りです。

- ・住み続けたいか
- ・住まいの状況
- ・住み続けるために困っていることはないか
- ・判断力が低下した時の不安等
- ・相談できる人いるか
- ・これからの住まい方をどうするか

